

没後百二十年

# 渡辺小華展

## 華椿系の百花と水墨

三河・遠州に華椿系の江戸文人画があふれる。  
重要文化財、重要美術品を含む約140点を公開。

本年は渡辺小華没後120年にあたり、今回の展覧会では、小華作品として琢華堂入門中の嘉永2年の作品から晩年までの作品約100点と、渡辺華山から椿山に継承される花鳥画家として華山の末弟・渡辺如山、椿山の長男・椿華谷の作品も併せて展示。華椿系画家の幕末から明治時代中期までの流れを総合的に振り返った総計約140点の作品展となります。  
なお、会期中には作品の展示替（後期10月23日）があります。



渡辺小華《沙園九友図》(明治7年・豊橋市美術館蔵)

# Watanabe Shoka



渡辺小華(1835~1887)は、渡辺華山の二男として江戸麹町(現在の東京都千代田区隼町)田原藩邸に生まれました。華山が田原池ノ原の地で亡くなったときには、わずか7歳でした。その後、弘化4年(1847)13歳の小華は田原から江戸に出て、椿椿山の画塾琢華堂に入門し、椿山の指導により、花鳥画の技法を習得します。嘉永4年(1851)、江戸田原藩邸で世子三毛康寧の絵画の相手を命じられました。嘉永7年、絵の師椿山が亡くなると、独学で絵を勉強します。安政3年(1856)、江戸在勤の長兄(ちち)が25歳で亡くなったため、22歳の小華は渡辺家の財産を相続し、30歳で田原藩の家老職・磨藩後は参事(まご)の要職を勤めました。明治維新後、田原藩務が一段落すると、田原・豊橋で画家としての地歩を築き上げました。第1回内国勸業博覧会(明治10年)、第1回内国絵画共進会(明治15年)に出品受賞し、明治15年(1882)上京。中央画壇での地位を確立していきます。花鳥画には、独自の世界を築き、宮内庁(明治宮殿)に杉戸絵を残すなど、東三河や遠州の作家に大きな影響を与えましたが、53歳のとき病気で亡くなりました。



渡辺小華《煙草棉花写生圖》(明治10年頃・田原市博物館蔵)



渡辺小華《雲龍圖》(明治3年・平野美術館蔵)

## 10/6(土)~11/11(日)

開館時間 / 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 / 毎週月曜日

ただし、10月8日は祝日のため、開館し、10月9日は休館します。

10月2日~5日、11月13日~15日までは展示替のため、休館します。

観覧料 / 一般600円(480円)

( )内は20名以上の団体割引料金です。

中学生以下無料

10月11日(木)【華山大祭】は無料公開します。

記念講演会

演題《近世絵画から近代日本画へ~文人画の流れを中心に~》

講師 / 奈良県立美術館副館長 吉田俊英氏

10月11日(木)午後1時30分から / 華山会館(入場無料)

展示解説

10月14日(日)11月4日(日)午前11時から / 当館学芸員

参加希望の方は観覧料が必要になります。

図録のご案内

今回の企画展の図録を販売しています。出品作品の図版を数多く掲載していますので、この機会にぜひお買い求めください。

A4版、カラー・1色 無線綴じ 価格2,000円(税込)

主催 / 田原市博物館・財団法人華山会・中日新聞社  
後援 / 愛知県教育委員会・NHK名古屋放送局

## 田原市博物館

☎22局1720 / FAX 23局3770

🌐http://www.taharamuseum.gr.jp